



ことばの育ち

ことばの育ちは、「ことば」だけで育っていくのではなく、脳全体の発達が関係しており、日常生活が基本となります。一つひとつ大切に積み重ねていきましょう。ことばの育ちにはいくつかのポイントがあるといわれています。



ことばは、体や心の発達と
関わりながら発達する

ことばの育ちについて、「ことばのビル」で例えられることがあります。ビルが下の階からの積み重ねでできあがるように、ことばも一つひとつの積み重ねにより言えるようになっていきます。

一番の基礎となる部分は「規則正しい生活」です。眠りのリズムを整えてあげましょう。眠ることで知能や感情を育むともいわれている「成長ホルモン」が分泌されます。朝7時には起きて日中は良く

遊び、夜9時には寝かしつけると良いでしょう。次に、「体を使った遊び」も大切になります。手や足、全身を使った遊びは脳に刺激を送り、発達が促されるといわれています。手遊びやボール遊び、公園や近所のお散歩などでお花や木の実といった自然の中で遊ぶのも良いでしょう。遊びに没頭し満足を得ることで心も発達していきます。



わかるのが先で
言えるのは後

お子さんの「言えることば」とらわれてしまいがちですが、ことばの発達は「わかるのが先で言えるのはあと」という法則があります。言えることばは氷山にたとえると水面上にあらわれた部分で、水面下にある「わかることば」に支えられています。

まずは、毎日の生活の中でいろいろな体験や経験をする。ことば「わかることば」を増やしていくことを大切にしましょう。お子さんの興味を持つていることに共感し、一緒に見る・触れる・味わうな

どの同じ体験をし、気持ちや事柄をことばで共有することが大切になります。顔を見て優しくことば掛けをしてあげましょう。また、ことばを話し始めるためには、「相手に伝えたい、わかっている」という意欲が必要になります。例えば、お子さんの「ああ」という声に「なあに？ ○だね。」などと答えるような関わりを繰り返すことが、お子さん自身の伝える意欲を育てることにつながります。



お子さんのペースに
合わせた関わりが大切

お子さんの発達には個人差があり、特にことばの発達は個人差が大きいものです。あせらず、その子のペースに合わせて関わっていくことが大切です。見本を見せてあげたり、少し待ってあげたり、言葉を添えてあげたり、少しサポートしてあげること

でできることが増え楽しい体験が増えることにつながります。ぜひ、親子のやり取りを楽しんでください。

